

シエラ ブルバンク感じなかった

ラリー・モンゴリア



◆ラリー・モンゴリア オート部門最終結果◆ (8月12-19日)

| 順位 | ドライバー / ナビゲーター | マシン | タイム(差) |
|----|-------------------|-------------|------------|
| 1 | ビャムバツォグ / ルハグワニヤム | トヨタFJクルーザー | 29時間09分31秒 |
| 2 | スホチル / ナランバタル | 三菱パジェロ・エボ | 17分27秒 |
| 3 | サルルール / アナール | 三菱パジェロ・エボ | 28分04秒 |
| 4 | バトボルド / アマルタイバン | 三菱パジェロ・エボ | 1時間22分07秒 |
| 5 | 菅原照仁 / 諏訪寛道 | 日野レンジャーFT | 2時間34分35秒 |
| 6 | 篠塚建次郎 / 千葉栄二 | スズキ・ジムニーシエラ | 5時間16分22秒 |
| 9 | 菅原義正 / 高橋 貢 | スズキ・ジムニー | 11時間18分24秒 |

※出走20台

驚異的な速さで追いつけたという。

「大雨の影響で7ステージ中3ステージが中止になってしまったが、十分に走りを楽しめた。砂漠ステージではアルジェやチュニジアを走っているような気分になったよ。コースも素晴らしいかった」と篠塚。人生の多くを費やしたダカールラリーを引き合いに出し、昨年までは主催者のサポート役としてかわったラリ

4年ぶりの実戦だった「ラリー・モンゴリア」(8月12-19日)に参戦した篠塚建次郎(63)が23日、本紙の取材に答えた。「ブルバンクは全く感じなかった。昔に戻った感じで走りを楽しんできた」と声を弾ませ、久しぶりのラリーレイドを心底堪能したようだ。成績は2輪を含めた総合では16位だが、四輪部門では6位(日本人2位)。ナビゲーターを務めた千葉栄二氏が初挑戦だったこともあり、実質の初日だったE T A P 2ではミスコースやパンクなどで3時間もの大きなロスを喫したが、その後は乗り込んだジムニー・シエラ(スズキ)としては

「大雨の影響で7ステージ中3ステージが中止になってしまったが、十分に走りを楽しめた。砂漠ステージではアルジェやチュニジアを走っているような気分になったよ。コースも素晴らしいかった」と篠塚。人生の多くを費やしたダカールラリーを引き合いに出し、昨年までは主催者のサポート役としてかわったラリ

今回乗り込んだジムニー・シエラはナビを務めた千葉氏が、本職のメカニックの腕を奮って自ら造り上げたクルマ。「軽自動車がベースなんでホイールベースが短く、挙動がものすごくピーキー。ダカールのようなスピードじゃないんだけど、コーナリング中に相当修正しなければならず、それが楽しかった。足回りはしっかりしていたが、これぐらいの改造でも十分走れるので、皆も(ラリー・モンゴリアに)出ればいいのに」。22日に帰国したばかりで、まだ体にアドレナリンが残っているという篠塚は、いつになく上機嫌だった。

ブルバンクを感じさせない走りで追いつけた篠塚(左)はゴール地で上機嫌。千葉ナビと喜びを分かち合った。

シエラ(スズキ)としては



ジムニーで砂漠を駆け抜けた篠塚 (SSER提供)

1・モンゴリアの楽しさを、競技することで再発見したようだ。